

## ようこそ！麻里布小ホームページへ

### ◎岩国市と麻里布地区の発展の礎は400年前の大事業から

岩国は文字どおり平地の少ない土地でした。約400年前に、毛利藩の支藩としてこの地に入った藩主吉川広家は、数本あった錦川を一つにし、城下町を整備すると農地を確保するために干拓によって土地を広げていきました。江戸時代に田畑として耕作されていた広大な土地は、今日では、石油化学工場や製紙工場などの工業用地や商業地、住宅地などに姿を変え、岩国市は、多様な機能をもつ都市へと発展しました。

麻里布小学校も、校歌の二番に「ああゆかし麻里布の浦に」とあるように、昔の干拓地の上に立地しています。

そして現在、校区は市の中心地となり、市役所・警察署などの官公庁や商店街とともに、平地から丘へ連なる住宅地が広がっています。

### ◎もうじき150周年、最盛期には約2000人の児童

本校は、明治6（1973）年1月に今津小学校として開校し、明治44（1911）年に麻里布尋常高等小学校となりました。147年間で卒業した児童数は、16353人、昭和54（1979）年には1991人の児童が在籍していました。あと2年半で150周年を迎える本年度の児童数は799人。少子化が進んだ中でも県下有数の規模を有しています。

### ◎明るさと素直さを強みに主体性を発揮して「みんなが幸せになる学校へ」

本校の児童は、明るく素直で穏やかです。まだ強みまでには至っていませんが、比較的によくあいさつもします。

そして、なんと言っても本校の強みは、高学年の委員会活動等で発揮される「楽しみをつくり出す力」です。様々な委員会が、昼休みなどを中心にちよとした楽しい催しを企画しているのです。

本年度は、コロナウイルス感染予防の面から、できることが制限されていますが、縦割り班による放送を使った集会活動が開催され、今後遊びの時間にも広がっていきそうです。

私は、学級での困りごとや生活をより豊かにする工夫を見つけ、それを話し合いで解決したり、改善したりする取組が本校の児童の主体性を大きく伸ばす鍵であると確信しています。

そこで、みんなの幸せのために、進んでアイデアを提供し、協働してよりよい学級・学年・学校をつくろうとあらゆる機会呼びかけ、価値付けを図っています。

「学校における生活者・学習者」「地域の一員」という視点から、自ら参画する意欲と実践力を身に付けていくことが、コミュニティ・スクールや小中一貫教育の機能を最大限に生かすポイントだと信じ、教職員・保護者・地域住民とともに「みんなが参画する学校」をつくっていきたいと思います。

みなさんの参画をお待ちしております。

令和2年8月

麻里布小学校 校長 村川直樹